

北日本新聞 創造の森 越中座

THE KITANIPPON SHIMBUN SOZOUNOMORI ETCHUZA

No. 05-005-2010更新

新築
工場・物流施設

発注者	北日本新聞社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携
施工	鹿島・佐藤工業・日本海建興 共同企業体		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他

環境と地域社会との共生を目指した新聞印刷工場

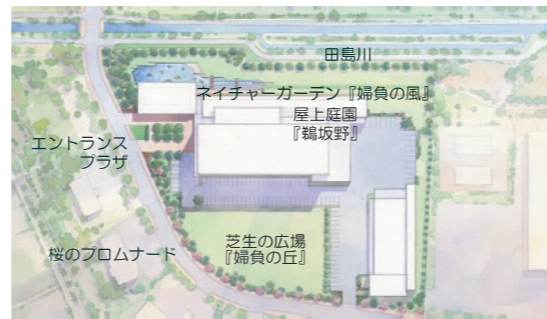


最新鋭の生産技術と『地域・風土・歴史の尊重』との融合

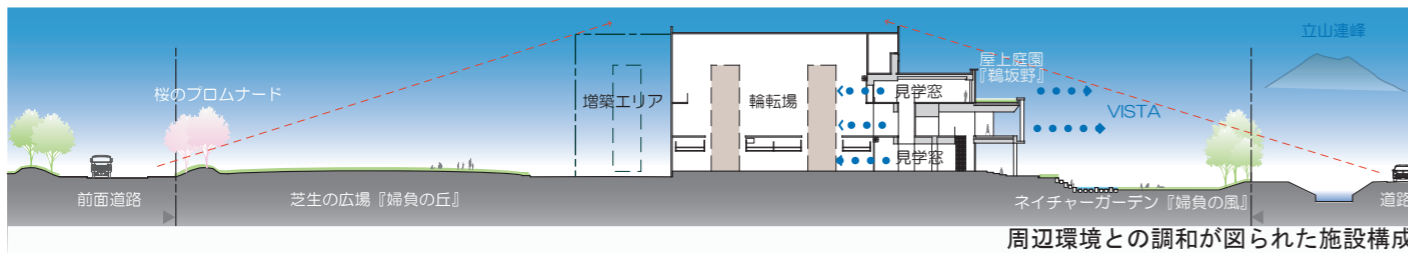
富山県の地方紙「北日本新聞」の新製作拠点である。最新鋭の輪転機2セットを導入。1セット分の増築エリアを確保する事により輪転機の更新に対応し、建て屋の長寿命化を図っている。工場でありながら芝生広場やピオトープ空間、屋上ガーデン、地域交流施設、新聞博物館等を備え、地域に開かれた情報発信拠点としての役割を担う。エントランスには、全面ガラス貼りのオープンな見学者ホールを設置し、ガラス越しに工場内が望めるエスカレーターにより3階新聞博物館への直通動線を設け、臨場感あふれる印刷プロセス全体を把握することができる。外観は、地域の歴史的景観を意識しながら、要所に再生木や耐候性鋼板、天然石等を用いて内部空間の違いを表出し、圧倒的な輪転場のボリュームを周辺環境に溶け込ませることを意図した。竣工後、それぞれの広場には「歴史を語り継ぎたい」という建主の思いにより平成に消滅した古代からの郡名が継承されている。



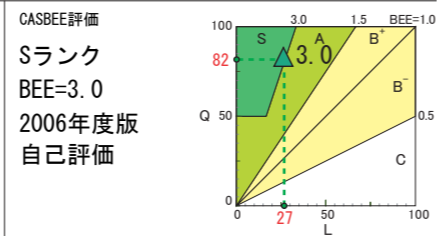
地域の景観の継承を目指した外観デザイン



周辺環境との調和が図られた施設構成



所在地	富山県富山市
竣工年	2006年
敷地面積	21,486㎡
延床面積	9,140㎡
構造	柱：SRC造 梁：S造
階数	地上4階

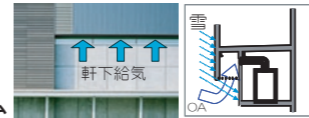


省エネが図られた設備システム

印刷中は発熱量が膨大となる輪転場の空調は、印刷時と非印刷時の空調系統を分けることで高効率化を図っている。また、大容量の給排気を安定的に確保するため軒裏を利用した給気システムを採用している

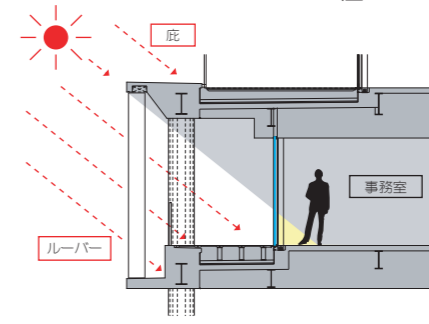
輪転機の基礎は、振動を建屋及び近隣に伝えないため独立した基礎を設けている。また、独立基礎により発生するピット部分を設備スペースとし、躯体の有効利用を図っている。

地域環境に配慮した給気システム



電動可変縦ルーバーによる温熱環境向上と眺望確保の両立/ブラインドレス

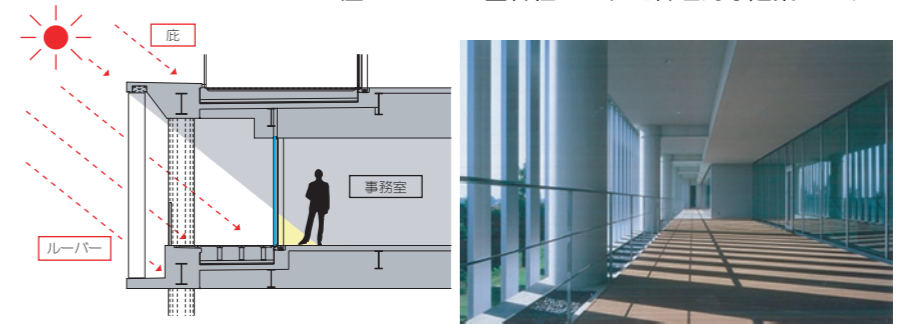
2階の立山連峰を望める開口部には、日射を自在にコントロールし熱負荷を抑える電動可変ルーバーと大庇を採用した。電動ルーバーは開閉時ともに温熱環境の快適性向上と眺望の確保を両立でき、年間を通じて快適な室内環境を形成している。



新聞博物館/積極的な見学者対応

本施設には、工場見学ルートの一環として新聞博物館が併設されており、産業観光ルートにも指定されている。地域密着型イベント開催の核施設としても多大な貢献をしており、地域活性化に対し有効に機能している。

生産プロセスと整合性のとれた合理的な建築システム



ネイチャーガーデン『婦負の風』

敷地には雨水調整池が設けられていたが、季節を感じ取れる木々や水辺を整備しピオトープ空間につくり上げた。利用者に憩いの場を提供すると共に隣接する田島川の川沿いの修景として相応しい環境景観を形成している。竣工後の運営管理の努力もあり、カルガモが雛を産む環境にまで成長しているようである。またスタッフがドジョウやトンボやメダカ呼び寄せ育てる工夫をしたり、また小鳥の巣箱作りのイベントが行われるなど、子供たちの環境教育の場としても役立っている。



ここで誕生したカルガモの雛



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (電源二重引き込み、瞬低対策、避雷器、防潮堤、電源引き込み嵩上げ)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (雨水調整池の緑化・ピオトープ化、屋上緑化)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (地域交流施設・新聞博物館の併設、イベント広場、災害緊急避難場所)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制 (庇、電動可変ルーバー)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (高効率空調、ピット有効利用)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (生産機器の防振対策-独立基礎、敷地の緑化)